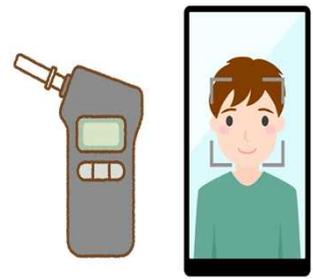


- 重大事故を起こした事業者の大半は、点呼の未実施など運行管理が不十分。
- 貸切バス事業者において、改ざん・不正防止を含む確実な運行管理の実施を図るため、「デジタル式運行記録計の使用の義務化」、「アルコール検知器使用時の画像記録保存の義務化」、「点呼記録の動画保存の義務化」等を令和6年4月以降、順次実施する。

	運行記録計	アルコール検知器	点呼記録
現状	アナログ式やデジタル式	呼気中のアルコールの有無を確認	紙や電磁的方法で1年間保存
制度改正後 (令和6年4月※)	デジタル式のみ	呼気中のアルコールの有無を確認 + 検知器使用時の画像記録	電磁的方法で3年間保存 + 動画(音声含む)で点呼の様子を撮影の上、90日間保存
			
			監査や巡回指導において、 確実に点呼が行われているか確認

※ 一部は令和7年4月から